

第45回 容量市場の在り方等に関する検討会 議事録

1. 開催状況

日時：2023年3月29日（水） 13:30～14:30

場所：Web会議

出席者：

秋池 玲子 座長（ボストンコンサルティンググループ マネージング・ディレクター & シニア・パートナー）
秋元 圭吾 副座長（公益財団法人地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー・主席研究員）
安念 潤司 委員（中央大学法科大学院 教授）
小宮山 涼一 委員（東京大学大学院工学系研究科 教授）
林 泰弘 委員（早稲田大学大学院先進理工学研究科 教授）
松村 敏弘 委員（東京大学 社会科学研究所 教授）
圓尾 雅則 委員（S M B C日興証券株式会社 マネージング・ディレクター）
伊藤 英臣 オブザーバー（東京ガス株式会社 電力事業部 担当部長）
紀ノ岡 幸次 オブザーバー（関西電力株式会社 エネルギー・環境企画室 企画担当部長）
佐々木 邦昭 オブザーバー（イーレックス株式会社 経営企画部 副部長）
高垣 恵孝 オブザーバー（送配電網協議会 ネットワーク企画部長）
森 正樹 オブザーバー（電源開発株式会社 経営企画部 ESG・経営調査室長）
浅井 大輔 オブザーバー代理（東京電力パワーグリッド株式会社 系統運用部 担当部長）
荒木 崇 オブザーバー代理（株式会社エネット 経営企画部）

欠席者：

松平 定之 委員（西村あさひ法律事務所 パートナー）
梅本 昌弘 オブザーバー（伊藤忠エネクス株式会社 電力・ユーティリティ部門 電力需給部長）

議題：

- （1） 追加オークションのスケジュール変更（再周知）及び、対象実需給 2024 年度の容量確保契約の状況について
- （2） 長期脱炭素電源オークションの本検討会での取り扱いについて

資料：

- 【資料1】議事次第
- 【資料2】委員名簿
- 【資料3】追加オークションのスケジュール変更（再周知）及び、対象実需給 2024 年度の容量確保契約の状況について
- 【資料4】長期脱炭素電源オークションの本検討会での取り扱いについて

2. 議事

(1) 追加オークションのスケジュール変更（再周知）及び、対象実需給 2024 年度の容量確保契約の状況について

- 事務局より、資料3に沿って、追加オークションのスケジュール変更（再周知）及び、対象実需給 2024 年度の容量確保契約の状況について説明が行なわれた。

[主な議論]

(荒木オブザーバー代理)

資料3の10ページ、13ページで、2024年度の容量確保契約の状況を、今回お示しいただいた。発動指令電源の退出容量は102万kW、安定電源や変動電源の退出容量は105万kWとあり、合計で200万kwを超える電源が退出をするということになる。この各電源の退出の理由や、エリア分布について、電源種別の特徴等を分析していただいて、2023年度以降に実施されるオークションの募集条件等への反映について、検討を進めていただきたいと考える。

(事務局)

ご意見いただき感謝する。退出電源のエリア分布、電源種別等についての分析を進めて参り、追加オークションに向けて考慮し、検討して参りたいと考える。

(松村委員)

今回の事務局の整理に異議等はない。ご報告感謝する。今回の議題と関係ないことをいうようで申し訳ないのだが、発動指令電源が25%も退出するということを重く受け止めている。発動指令電源が今回こうなった理由が初回の特殊ケースなのか、今後もこのような大量な退出が出てくるのか等、私達は注視しなければいけないと考える。実際に発動指令電源には上限が設けられていて、その上限に引っ掛かったというようなケースが今後も出て来得ると考えるが、上限に引っ掛かかり、入りたい電源が入れなかったのにも拘らず、簡単に退出してしまうという事態は、制度設計としても芳しくないと思う。理由を見れば、一つひとつはやむを得ないようなことだと理解するが、このようなことが続くと、発動指令電源あるいはDRに対する信頼性が下がり兼ねないと思う。事業者の方も、もちろん安直に退出しているようなことは決してないと認識するが、一つ間違えると自分達の首を締め兼ねない行為だということは、もう一度認識していただきたいと考える。何れにせよ、この数字は注視して見ていかなければいけないと考えた。

(事務局)

ご意見いただき感謝する。仰る通り、今回の実効性テストの結果について、供給力として発動指令電源に過度に期待することはやや心配な面があるが、一方で、初回の実効性テストであったので、引き続き注視する必要はあるかとも認識している。また、どのような形で実績が出なかったのかについて、市場管理者として把握していく必要があると考えている。

(秋池座長)

追加オークションのスケジュール変更および容量確保契約の状況について、ご意見、ご検討に感謝する。この後、追加オークションについては開催判断と需要曲線の公表を4月に予定しており、6月には応札受付を行なう予定となっている。事務局においては事業者の参加登録の対応を含めて、追加オークションの準備について、引き続き宜しく願います。

(2) 長期脱炭素電源オークションの本検討会での取り扱いについて

- 事務局より、資料4に沿って、長期脱炭素電源オークションの本検討会での取り扱いについて説明が行なわれた。

[主な議論]

(林委員)

事務局の説明に感謝する。6 ページ 5 項目の記載にて、メインオークションと追加オークションに加え、今後は長期オークションも入ってくるということを理解した。これまでのメインオークションの実施時期は、1 回目 が 7 月、2 回目 が 10 月、3 回目 が 11 月と理解しているが、仕組みの見直しの議論等の影響を受けて、流動的になっているのではないかと感じている。年 3 回のオークションをこれから実施していくと認識しているが、参加者や運営者の業務負担もしっかり考慮して、例えば時期を分散させ、年間のルーティンとして実施時期を定着させるようなことは、関係者にとってもメリットがあり、市場運営にとっても非常に良いと考える。どう仕切っていくのか、どう折り合いをつけるのかも含め、留意して議論していただければと考える。

(小宮山委員)

ご説明いただき感謝する。長期脱炭素電源オークションならびに既存の容量市場をしっかり補完的に機能させていくことが大事だと認識している。一つ考えられる点として、長期脱炭素オークションが開始してそこで落札された電源というのは、基本的にこれまでの議論を踏まえると、容量市場のメインオークション、追加オークション等から控除されるものと認識する。長期脱炭素電源オークションの場合だと、水素、アンモニア発電等、新技術を対象にしているということで、供給開始が遅れるようなことが発生した場合には、容量市場のメインオークション、追加オークション等でその不足分を確保することになると考えられるが、その際に安定した量ならびに価格での調達が可能かどうか、そうした点も大事になってくる。但し、長期脱炭素電源オークションのこれまでの議論を踏まえると、既にペナルティもしっかり設計されており、また、スモールスタートで始めていくということで、その点も十分配慮はされていると考えるが、容量市場、長期脱炭素電源オークション全体として、しっかり供給力確保に寄与するかどうか、供給計画等も踏まえてシミュレーションすることも大事になるのではないかと考えている。

(秋元委員)

ご説明いただき感謝する。長期脱炭素電源オークションを広域機関で見えていくということで、業務が多くなり大変かと認識するが、是非ともしっかり対応いただきたい。体制面についてはどうなっているのか存じ上げないが、業務が増えるということで、しっかりとした体制を築いていただきたい。このところ少々ミス等が散見されているので、しっかり体制を築いてミスが起こらないように進めていただければと考える。他の委員からも話があったが、容量市場のメインオークション、追加オークション、そして長期脱炭素電源オークションということで、整合性が大変重要になってくると考えるため、総合的な評価等をしっかり進めて、より良い全体の制度設計に資するように、取り組みを進めていただきたい。

(荒木オブザーバー代理)

ご説明いただいた通り、長期脱炭素電源オークションの市場運営、募集要綱、情報発信等の報告や検討を、当検討会で行なっていくことに対して賛同する。また、6 ページにお示しいただいた今後の進め方において、長期脱炭素電源オークションで特有となる取り組みについてのご紹介、これを行なっていただくことにも賛成する。ご紹介いただく技術については、是非技術フラットに、例えば、水素、アンモニア、e-メタン、蓄電池等、多様な取り組みについても幅広くご紹介いただければと考える。

(事務局)

様々なご意見感謝する。長期脱炭素電源オークションの市場管理者として、しっかりとした体制を築いていきたいと考えている。ご意見いただいたように、三つのオークションを年間で回していくこととなるため、参加者側のマンパワーや我々運用者側もミス等ないようにする体制等を、しっかりと考慮して、スケジュールも検討していきたいと考えている。また、供給力の集め方に関して、長期脱炭素電源オークションの分をメインから控除してトータル的に確保するということであるが、そのような仕組みを国の審議会で検討がされていると承知している。それぞれのオークションがしっかりと機能していることが大事だということを念頭に置いて、市場運営を進めてまいりたいと考えている。また、このオークションの活性化に繋がるような取り組みの紹介といったところも積極的にしていきたいと考えている。もう1点、秋元委員からもご指摘いただいた体制面の話は、私共もしっかり進めてまいりたいと考えており、こちらの検討会等でもお話できることを報告させていただきたいと考えている。また、ミス等のご指摘も感謝する。改めて、ご心配とご迷惑をおかけしていること、申し訳なく思っている。こういったところも、体制をしっかりやっていく中で乗り越えていきたいと考えているため、引き続き宜しくお願いする。

(秋池座長)

委員、オブザーバーの皆様、ご検討、ご意見感謝する。今後、長期脱炭素電源オークションについて、本検討会の中で報告を適宜行ないながら、市場運営に関する相談等も予定している。宜しくお願いする。事務局においては容量市場メインオークションや追加オークションとともに、長期脱炭素電源オークションに関しても、年間を通じた市場運営の俯瞰的な確認や、中長期的な供給力の確保の観点からも、引き続き宜しくお願いする。以上で本日の議事は全て終了した。

以上